

■ 2009年(1月～6月)活動報告 ■

コープさが ネパール指定募金贈呈式

6月30日(火) 佐賀市文化会館にて

- ◆コープさが第19回通常総代会にて「コープさがネパール指定募金」の贈呈が行われました。コープさが生協ではお年玉募金や店頭の募金箱に寄せられた436,998円の募金を日本ユニセフ協会佐賀県支部太田記代子常務理事に手渡されました。皆様からご協力いただいた浄財は、ネパールの村の人々が主体的に開発計画を作り、村の状況を改善していくために使われます。ありがとうございました。



お礼を述べる
太田記代子常務理事

募金贈呈式

6月17日(水) 中原小学校にて

- ◆中原小学校運営委員の5・6年生の皆さんは、ユニセフ募金活動に取り組みました。5月12日・14日・15日の3日間、朝の時間に全校のお友だちに協力を呼びかけました。その結果、10,219円もの募金が集まりました。本日の朝会で、運営委員の皆さんから「みんなが募金をして集まったお金です。世界中で困っている人々を助けるために使ってください。」と手渡しがありました。
- ◆募金贈呈の後、蚊が運ぶマラリアによって30秒に一人の割合で子どもの命が奪われていること、その予防として、ユニセフはマラリア予防の処理をした蚊帳を子どもたちの家族に配り、子どもたちが安心して眠れるようにしていることなどをお話しました。

ユニセフ講演会

6月13日(土) アバンセ4F第2研修室Aにて



演題： ラオス・スタディーツアー報告会 『売買される子どもたち』
講師： 佐伯律子さん（日本ユニセフ協会展示ボランティア・日本ユニセフ協会神奈川県支部学習講師ボランティア・ネパールの女性教師を育てるプロジェクトで活動中）

- ◆日本ユニセフ協会神奈川県支部では、2005年の支部設立時から『ラオスの子どもたちを人身売買の被害から守るためのプロジェクト』を展開しています。佐伯さんはラオスの子どもたちの現状と人身売買被害の状況を知るために、2008年10月26日から11月2日まで、ラオス人民民主共和国を訪問されました。本日は、そこで見聞きし、感じたことをいくつかの事例をもとにお話いただきました。
- ◆ラオスの概要紹介の後、ストリートチルドレン保護施設・子どもの保護ネットワーク(CPN)に参加している村・人身売買の被害者を助けるシェルターと帰還者のための職業訓練施設・保護センターなどを訪問して、人身売買の背景や被害の状況、それに対するユニセフの取り組みなどを詳しくお話していただきました。



人身売買被害者のための「緊急連絡カード」



多くの参加者で準備した椅子や資料が足りないほどでした。

- ◆ナンバー郡フォンシャン村には13歳～18歳ぐらいの子どもが80人いるが、そのうち実際に人身売買の被害にあっている子どもが34人いて、まだ村に戻っていない子どもが15人いる…など、具体的な数値をあげての分かりやすいお話に、参加された皆様は聞き入っておられました。佐伯さんは、「勇気を出して語ってくれた人身売買の被害者の言葉を、その思いを無駄にしないためにもラオスの現状を伝えていかなければならない。」と語られました。

参加者の声(アンケートより)

- ◆同じ世代の子どもたちが人身売買されている現実を受け入れるのは難しく思いました。本当に、今日言われたようなことがあると思うと信じられない気持ちです。私にできることがあれば何かぜひやってみたく思いました。
- ◆子ども一人ひとりの事例をたくさん織り交ぜてお話して下さって、とても分かりやすく、心が痛くなる時間でした。問題は国境を越えて複雑であり、数も多く、また一部ではあるけれど子どもを売らざるを得ない親側の事情もあり、解決はとても困難なことであると思いました。教育と雇用の必要性を感じました。買春ツアーで被害を助長するような人間を作らない教育を、恵まれすぎている日本ではしなければならないのは悲しいことです。ありがとうございました。
- ◆「世界がもし100人の村だったら」という本を以前読んだことがあるが、何不自由なく生活できている私たちには、理解しがたい部分があります。しかし、今日の講演をお聞きし、自分も実際に発展途上国に赴き、自分の目で世界の現状を知りたいと思いました。私は将来、海外ボランティアに携わりたいと思っているので、今後自分の知識を深めていきたいです。

ユニセフグッズ頒布&ユニセフ募金

6月7日(日) 第25回鹿島ガタリンピック会場にて
(鹿島市七浦海浜スポーツ公園)

- ◆鹿島ガタリンピックも25回目の開催となり、すっかり有明海干潟の初夏のイベントとして定着し、全国的に紹介されるようになりました。今年は14ヶ国からの参加があり、1,600人の選手が「人間ムツゴロウ」になって競技を繰り広げました。テーマは「干潟にはまればG遊人～しょっぱいけれどクリーミー～」。会場は35,000人の観客で、大変賑わいました。
- ◆地元、西部中学校のユニセフボランティアの皆さんは、ユニセフの青い募金箱を持って会場をまわり、募金協力を呼びかけました。観客の皆さまからご協力いただいた募金は33,260円にもなりました。ご支援ご協力いただいた全ての皆さまに、心より感謝申し上げます。ありがとうございました。



広大な干潟で繰り広げられる競技



西部中学校ユニセフボランティアの



皆さんドロンコのお姉さん
ムツゴロウも応援



かわいいカードをどうぞ

第16回 ユニセフチャリティーバザー ～ マラリアから子どもを守ろう ～

5月17日(土)午後2時～3時 佐賀玉屋デパート南館西側アーケードにて

◆今年にはバザー品の集まりが少なく開催が危ぶまれましたが終盤になって、「チラシで知った。このようなことに協力したかった。」と宅急便で送ってくださった方、「インターネットで知った。役立たせてください。」と関西から送ってくださった方、「この時期は年に一度の七夕様のような行事になりました。」と品物の提供をお知らせくださった方、社員の皆様に呼びかけて協力してくださった企業様など多くの方のご支援で400点余りのバザー品が寄せられました。また、「新聞でバザーのお手伝い募集を知ったので。」と鳥栖市から売り子さんに来てくださった高校生もいらっしゃいました。



- ◆雨の中、9時からの値付け作業にベトナムやマダガスカルからの留学生さんもボランティアとして駆けつけて、仕分けやお客様がお求め安くなお且つ1円でも多くの募金になるようにしたいと相談しながら楽しくすすめてくださいました。
- ◆「世界では30秒に一人の割合で子どもたちがマラリアで命を落としています。マラリア予防に有効な方法は蚊帳を使うことです。今年にはマラリア予防用の蚊帳300張りにあたる分の募金を目標にしています。皆様のご協力をお願いします！」とお客様に呼びかけました。
- ◆バザーの総額は102,841円となりました。バザー品をご提供くださった皆様、仕分け・値付け・販売など色々な形でお手伝いくださったボランティアの皆様、そして雨にもかかわらずお買い物に来てくださった多くのお客様、会場をご提供くださった佐賀玉屋デパート様、すべての皆様に心から感謝申し上げます。ありがとうございました。



イオン「幸せの黄色いレシートキャンペーン」贈呈式

5月9日(土) ジャスコ佐賀大和店



◆イオン九州株式会社様は、地域への社会貢献活動の一環として、「幸せの黄色いレシートキャンペーン」日に、お客様が登録された団体のボックスに黄色いレシートを入れていただき、総額の1%をその団体にイオンギフトカードとして贈る取り組みをされています。

2008年度分として12,500円分のギフトカードの贈呈がありました。ご協力いただいたお客様のお気持ちをユニセフ募金とさせていただきます。ありがとうございました。

ユニセフグッズの頒布

5月3日(土) 今右衛門古陶磁美術館前にて(有田町赤絵町)

- ◆朝から薄曇りの絶好の陶器市日和、全国各地からのお客様23万人の人出で賑わう有田陶器市会場の中ほどにある今右衛門古陶磁美術館前で、募金活動とユニセフグッズの頒布を行いました。
- ◆佐賀大学・西九州大学の学生さん、福岡市や大野城市・吉井町など遠方から早朝4時起きで応援にきてくださった方など総勢23名のボランティアさんが、大きな声でユニセフ募金や、グッズへのご協力を呼びかけました。
- ◆「今、世界では3秒に1人の割合で子どもたちの命が失われています。子どもの命を守るためユニセフ募金にご協力をお願いします！」「20円で1年分のビタミンAを10人の子どもたちにおくることができま～す。」と声をからしての願いをしました。有田陶器市においてになった沢山の皆さまのご協力をいただいて、208,251円ものユニセフ募金となりました。ありがとうございました。



「頑張ってください。」「100円でもいいでしょうか？」などと、声をかけてくださった方もいらっしゃいました。

グッズ頒布コーナーでは「おつりは募金にしてください。」と仰る方も。

ユニセフパネル展

4月19日(日) 第24回花みずき茶会にて
(佐賀市金立山いこいの広場)

- ◆新緑したたる金立山いこいの広場に緋毛氈を敷き、チャリティー茶会「第24回花みずき茶会～平和への祈りをこめて～」が開催されました。主宰の岩橋宗厚先生は、毎年ユニセフや国際ソロプチミストを通して、困難な状況下にある子どもたちへの支援を続けておられます。
- ◆待合にパネル「ユニセフの願い」を展示し、お席をお待ちのお客様にユニセフの活動の様子をご覧いただきました。

JA佐賀県女性組織協議会 愛の募金贈呈式

3月17日(火) 佐賀新聞社にて

- ◆JA佐賀県女性組織協議会では、昭和54年の国際児童年を契機に毎年「愛の募金」活動に取り組みられています。「愛の募金」活動は今年度で30年になり、これまでユニセフと佐賀県内の各施設に、ご協力くださった皆様の善意を届けておられます。今年も「世界の子どものための幸せのために役立ててください。」と120,707円の募金を、JA佐賀県女性組織協議会藤木智恵子会長様より、日本ユニセフ協会佐賀県支部中尾会長に贈呈されました。
- ◆贈呈式の後、中尾会長より、「子どもが生まれた時に受けるケアは、子どものその後の人生を左右する非常に根本的な問題にかかわる。乳幼児が、最も適切な形でその人生をスタートするために必要なケアが受けられるように、ユニセフは様々な面からのサービスの普及に努めています。」とのお話があり、例年継続いただいているご協力へのお礼の言葉がありました。



出前授業

3月11日(水) 神崎市放課後子ども教室ドリームパーク 千代田中部小学校
テーマ:水から世界を考えよう

- ◆神崎市子どもの居場所づくり実行委員会では、国の委託を受けて神崎市内の7小学校や公民館で、放課後や週末にいろいろな体験活動、世代間交流ができる居場所づくりを進めています。
- ◆千代田中部小学校ドリームパークの子どもたちは、「水から世界を考えよう」というテーマで学習しました。「みず・ミズ・水」クイズで、水に限られた資源であることを知ったり、すごろくゲーム「いのちを守る

水」で井戸が出来るまでを追体験したりしました。また、世界の子どもたちがどのようにして水を手に入れているかを画像で見た後、ネパールの水がめを使っての水運び体験をしました。

学習を終えて

- ◆世界には水がなくて困っている子どもたちがたくさんいる。ぼくは、水をのむときにコップにいっぱい水を入れなくて、のめるぶんだけつぐようにします。今までいっぱいついで、のめない水をすてていました。
- ◆家では、おふろの残り水を洗濯に使っているけど、お花にやったりお掃除に使ったりして大事につかいたいです。
- ◆ぼくは、トイレの水を流すときに、ずーっと押していっぱい流していたけど、今度からは流しすぎないように気をつけようと思います。



出前授業

3月11日(水) 柳川市立豊原小学校5年生

テーマ: いのちを守る水、いのちを奪う水

- ◆5年生の皆さんは道徳の時間に「世界の子どもたちのいのち」について考え話し合いました。世界には安全な飲み水を得ることができなくていのちを落とす子どもたちが大勢いることを知り、同じ地球に生きる友だちとして自分との係わりについて考えました。
- ◆5年生の皆さんは2学期に体験活動として地域の朝市でお店を出しました。自分たちで育てた大根や農家の方から仕入れた野菜等を朝市で売り、売上げの一部を「世界の子どもたちへ」と、託されました。この募金は、例えば、下痢による脱水症から命を救うORS(経口補水塩)約1,700袋分にもあたり、たくさんの子どもたちのいのちを守ることができることを知り、自分たちの活動が世界の子どもたちのいのちを守ることにつながることを知りました。



学習を終えて

- ◆私は、毎日何も考えないで当たり前のように水を使っていました。地球上の使える水はほんの少ししかないので、自分にできることは、水を大切にすることだと思います。
- ◆水に恵まれないところでは、子どもたちが毎日あんなに重い水を運んで学校に行く時間もないから大変だろうなあと思いました。自分にできることは、募金があつていたら協力したいと思いました。

出前授業

3月8日(日) 佐賀市どん3の森 アバンセ
「世界一参加したい授業のおまつり」 ～体験して理解できる新しい出会い～

◆「アバンセ」と「地球市民の会」の共催による「世界一参加したい授業のおまつり」で出前講座を実施しました。県内33の団体や個人による様々な講座があり、2,700人の来場者で賑わいました。ユニセフの講座にも唐津市からの中学生グループの参加や、小学生から大人まで幅広い年齢層の多くの方の参加がありました。

第1部 これはなあに？ どうしてつかうの？

◆子どもたちの命を守るために、ユニセフの現場で使われているORS(経口補水塩)・ビタミンA・ヨウド添加塩・カンボジアの Dengue 熱予防パンフレット・マラリア予防用の蚊帳・ネパールの母親学級啓発紙芝居・プランピーナッツなどを展示しました。

第2部 ワークショップ「水とトイレと子どものいのち」

①クイズ「水とトイレ、知ってるつもり」



②ユニセフすごろく「いのちを守る水」



③「メジナ虫病」ってなあに？



水がめを持ってみよう 村に井戸ができるまでを
すごろくでたどってみよう

④Befor & After: 2枚の絵

井戸ができる前の絵と井戸ができてからの絵を見比べて、
村の生活がどのように変わったかを話し合おう



参加者の声(アンケートより)

- ◆水やトイレについて知らなかったことがたくさんありました。安全な飲料水が地球上にはほんの僅かしかなく、それを豊かに使っている私たちとそうではない人々の差を思い知らされました。自分の水の使い方についても、もう少し考え直さなければいけませんね。
- ◆個人や家族、自分の住む国という視点だけではなく、地球に生きる人間という気持ちで色々なことを見なくてはいけないと思いました。
- ◆水事情が変わればその土地の生活の様子がゴロツと変わるということに気付かされました。
- ◆クイズあり、ゲームあり、befor & afterの違い発見ありなどで楽しく学べた90分でした。あっという間に時間が過ぎた感じがしました。ありがとうございました。

募金贈呈式

3月7日(土) 佐賀市大和町 北部児童センター

- ◆北部児童センターの皆さんは、2月14日の「子どもまつり」でフリーマーケットを開催しました。地域の皆さまからお寄せいただいた品物を販売し、売上げの一部をみんなで相談して「ユニセフに寄付しよう」と決められました。フリーマーケットのお客様は606人だったそうで、「僕たちがフリーマーケットで頑張ったお金です。世界の子どもたちのために使ってください。」と代表の方から手渡されました。



フリーマーケット係りのお話

- ◆たくさんのお客さんが買ってくれて品物がお金になるときは嬉しかったです。このお金でたくさん子どもたちが助かるのでよかったと思いました。

募金贈呈式

1月30日(金) 柳川市立大和小学校

- ◆大和小学校では運営集会委員の皆さんが12月に2週間、毎朝校門に立ちユニセフ募金活動をしました。1月の全校集会の場で、そのとき集まった募金23,152円の贈呈がありました。大和小学校の校訓の1番目に掲げられている「健康」を受けて、「子どもたちが健康に育つことはユニセフの願いです。」とお話し、アフリカでは、マラリアにより30秒に1人の割合で子どもが命を落としていること、マラリアから子どもたちを守るために有効な方法として殺虫剤処理を施した蚊帳の使用があることなどを、蚊帳を見せてお話ししました。

運営委員の話

- ◆募金をしているとき、協力してくれる人に「ありがとう」と思ったり、「これで何人の子どもたちが助かるかな？」と思ったりした。
- ◆蚊にさされてマラリアになって30秒に1人の割合で子どもが死ぬなんておどろいた。みんなのお金で世界の子どもの命が助かるとうれしいです。

出前授業

1月22日(木) 三潞郡大木町立大溝小学校6年

テーマ 「この世界に生きる子どもたち」～自分たちにできること～

- ◆6年生の皆さんは、総合的学習の時間に世界の様々な国や地域の子どもたちの暮らしを調べてきました。今日はユニセフの資料「この世界に生きる子どもたち」を通して、自分たちにできるボランティア活動に発展させる予定です。
- ◆「くすりはどれだ？」の活動で文字が読めないことの不安さや戸惑いを体験したり、ネパールの水がめで水運び体験をしたりしました。また、様々な困難な状況下で生きている世界の子どもたちの様子をユニセフのビデオを通して知りました。



学習を終えて

- ◆大人はみんな文字が読めると思っていたけど、世界には大人になっても文字が読めない人がいることを知った。文字を読めることは大切なことだと思った。
- ◆世界には3秒に一人の割合で子どもが死んでいっているのを知った。いろいろと助け合っていくことが大切だと思った。
- ◆自分には何ができるかこれから考えたいと思う。

